ＴＩＣＯニュースレター　2006年6月発行

# Face to Face

NO.8

特定非営利活動法人ＴＩＣＯ

## ザンビアのこどもたち

写真上左：視察に来たFIDRの小山さんと（カルブウェ）
写真上右：ちょっと照れているのかな？（カルブウェ）
写真下左：TICOザンビアの西口さんと（チペンビ）
写真下中：いい顔してる！（カルブウェ）
写真下右：ボロボロの大事なサッカーボール（ンゴンベ）

＜主な記事＞


- ザンビアのこどもたち
- 未来から21世紀を振り返ってみませんか？
- カルブウェ地区菜園プロジェクト
- チペンビプロジェクト情報
- DCC　ミシン寄贈


TICO（ティコ）は保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカ・ザンビア共和国で支援活動を行っているNGO（非政府組織）です。世界の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために1993年に任意団体として設立、2004年９月に特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）となり活動を続けています。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

# 未来から21世紀を振り返ってみませんか？

吉田　修

１００年後の学生になったつもりで２１世紀について勉強してみましょう。果たして我々の生きる２１世紀とはどんな時代だったでしょう。

未来の教科書に出てくる２１世紀とは、

＊　石油を使い果たした世紀
＊　森林をほとんど伐採してしまった世紀
＊　大量消費によりゴミの山を築いた世紀
＊　生物種が１／４に減少した世紀
＊　化学物質にすべてのものが汚染された世紀
＊　温暖化により平均気温が５℃上昇し、都市部が水没した世紀
＊　真水が枯渇した世紀
＊　農業生産、漁業生産が激減した世紀
＊　新しい感染症が蔓延した世紀
＊　資源争奪の戦争に明け暮れた世紀
＊　６０億人だった人口が１００億人に増加、その後、環境の悪化、感染症、戦争のためにわずか５億人に激減した世紀

我々の生きた時代は、後世にとってまさに地球を消耗してしまった時代だったということになります。

まだできることはたくさんあります。いや、まだやるべきことを何もやっていないではないですか。まだ間に合うかもしれません。

過去に滅亡した幾多の優れた文明についての科学的な検証は、「文明崩壊」ジャレド・ダイアモンド著に詳しく書かれています。巨大石像モアイで有名なイースター島もある時期に急激に人口が９０％減少したそうです。今は、全く木がない裸の島ですが、昔は亜熱帯雨林だったことが分かっています。文明崩壊の原因は、森林が再生するスピード以上に伐採したこと、それにより土壌の侵食が起こり、食糧生産が低下したこと、森林からの様々な資源が枯渇したこと、漁業用のカヌーさえ作れなくなったことです。終末期は、戦争を繰り返し人肉食さえ行っていたというのです。

この例は、地球という宇宙空間に孤立した小さな惑星の現代文明と同じではないでしょうか？

## 田淵幸一郎さん着任挨拶

今春の新入社員が選んだ「理想の上司」は、プロ野球の古田敦也と俳優の黒木瞳だったそうです。調査をした産業能率大は「一緒に仕事をしながら引っ張ってくれるタイプが受けるようだ」と分析しています。だとすれば、国際協力の現場では、古田敦也と黒木瞳は「理想のフィールドワーカー」ではないということになります。

私は16年前に青年海外協力隊として、ガーナで仕事をしました。電気も水道もない村の中学校教員として、２年間理科や数学を教えていました。その頃は、自分で教材を工夫して、自分で授業して、自分で試験をやって…と何でも自分でやることで満足していました。授業もそれなりにおもしろかったのでしょう、生徒たちも喜んでくれていたようでした。でも振り返ってみると、これは自分が「理想の上司」になりたい、自分がガーナの子どもたちに直接かかわることで自分自身も満足したい、とがんばっていただけなのではないか、と今になって反省しています。協力隊の仕事としては及第点だったと思いますが、10年以上たった今、あの中学校で少しでもましな理科の授業が行われている可能性はほとんどゼロでしょう。

ガーナから帰国後は普通のサラリーマンなどしていましたが、「ちゃんと役立つ技術をもって、またアフリカの発展に役に立ちたい」という気持ちがだんだんわいてきました。それから医者になるべく方向転換して、ずいぶん時間がかかりましたが、このたびTICOで仕事をさせていただくことになりました。

４月からザンビアに赴任して、カルブウェで新しく保健のプロジェクトを立ち上げるために準備を進めています。今回私がめざすは「理想のフィールドワーカー」の方です。立っているだけでも目立ってしまう外国人の自分をいかに黒子にして、村人たちを主役にして、自発的に村の健康状態を改善していけるようにできるのか、頭をひねる毎日です。

これからご支援のほどよろしくお願いいたします。

伝統医学の医師を訪ねて、強精薬を味見する田淵さん

# WAHE プロジェクト通信

TICO　ザンビア事務所　西口三千恵

**WAHE（ワヘ）とは？**
Water(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙う TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年ザンビア南部州にて飢餓緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」と「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチペンビとカルブウェに決定した。

ザンビア共和国

中央州チペンビ地区

中央州カルブウェ地区

## カルブウェ

### 菜園プロジェクト

故障井戸の清掃、ポンプの設置。ついに井戸から綺麗な水！枝豆の売上を手にし、大喜びのメンバー！しかし、一難去ってまた一難。盗難騒ぎに、キャベツがシロアリに食われる事態発生！？

**2月1日（水）**

ソーラーパネル、ポンプ搬入。ある企業の方がご厚意で作業を手伝って下さり、作業は滞りなく終了。ポンプテストをすると、綺麗な水が出た！これで乾季でも問題なく水の確保ができる。

菜園はオクラが終了。キャベツの準備に取りかかっていたが、遅すぎる。早急に準備する必要有り。

**2月3日（金）**

ワークショップとミーティングに参加。午前中のワークショップで季節カレンダーを作成。２月は金銭面・食料面とも厳しい時期である事が分かる。

午後のミーティングで枝豆を育ててくれたメンバー５人に、枝豆の売り上げの中から謝礼を渡す。１人５万クワチャずつ。皆大喜び！さらに枝豆の売上金から、メンバー全員にミルミル２５キロと多少の現金を分配する事が決まった。

**2月10日（金）**

先週約束していたミルミルを持って行く。ワークショップ終了後、ミルミル配布。TICO からお金が出ているのではなく、メンバーが作った枝豆の収益から出ている事を強調。

残りの売上金から５０００クワチャずつメンバーに配布。ワークショップ参加率の高い人や畑仕事を非常に頑張った人には特別金も渡され、きっちり活動に参加すれば相応の見返りがある事を印象づけた。

**2月17日（金）**

キャベツの植え替え終了。トマトの苗も第１回目の分は植え替え終了。畑では農作業に精を出すメンバーの姿を散見。先週のミルミル効果かと思いつつも、やはりこういう光景は嬉しい。

**2月28日（火）**

菜園の見張りの詰め所が盗難にあったとの事。しかも犯人は見張り本人！？前科もあるらしい。何故こんな人をいつまでもグループに加えているのか理解に苦しむ。きちんと対処されずに万が一ソーラーパネルが盗まれる事があれば、TICO は即刻カルブウェを引き払うと通達。

こんなゴタゴタで９時ワークショップ開始の予定が１１時に。講師のムシアニ氏は１０時に到着。 時間を守ってよと言いたいところだが、それから１時間も待たされているムシアニ氏を見ていると、こんな風に待たされ続けたら、遅く来るようになるよなと妙に納得。

野菜は、１ユニット分のキャベツが根から白アリに食われる被害に！！レイプ、トマト、大根、枝豆、ごぼう、カブなど他の野菜はどれも順調に育っている様子。

### 3月3日（金）

FIDR（国際開発救援財団）の視察が２日、３日の２日間あった。２日はルサカ市内のプロジェクトを視察して頂き、本日は視察のメイン、FIDR から助成を頂いたカルブウェでの視察。ソーラーパネル、ドリップイリゲーション（灌漑システム）、作物の説明をリーダーのケニスが行った。午後には FIDR の方によるカルブウェの現状を探るワークショップが実施された。

### 3月8日（水）

１３時より、ミーティング。が、時間になってもメンバーが揃わず、結局４５分遅れで開始。冒頭で TICO から、キャベツのシロアリ被害対策、盗難対策などをどうするのか、ミーティングで話しあうよう提案。

### 3月17日（金）

レイプが収穫時。白アリ被害を受けたキャベツユニットも、生き残った部分は随分大きくなった。トマト順調。来週頭にトマトを結わえる紐などを購入する事に。ジャガイモは種からの育てるのは難しいようで苗の育ちが悪い。種芋を購入する事に。日本人向けユニットの大根も発育良好。ワークショップでコンポストの作り方を勉強したいとの事でその準備も始める予定。

### 3月20日（月）

カルブウェメンバーと菜園に必要な物を買いに出かける。ジャガイモの種芋の値段が恐ろしく高い。とても手がでない。

### 3月24日（金）

大根３２本収穫。ほぼ完売。売上１６万２千クワチャ（約５千５百円）。枝豆の売上が驚異的な数字だったので何だか物足りない。大根ならこんなものか。

### 4月3日（月）

先週購入した紐を使って、トマトの苗がきちんと支柱に結わえられている。仕事が早い。

### 4月6日（木）

ムシアニ氏によるワークショップ。テーマはコンポスト（たい肥）作成。

化学肥料はお金がかかるので自分たちで作れるコンポストは、非常に興味のあるテーマだった様子。今回のコンポストが利用できるのは３ヶ月後との事だが、皆一生懸命作業をしていた。

### 4月13日（木）

苗床に張る日よけ用の布地を渡していたのだが、作業が何も進んでいない様子。明日までに出来る事になっているのだが…。

### 4月18日（火）

ミーティングに参加。２２日の土曜日にルサカで開かれるバザーで野菜が売れる事になったので、野菜を準備してほしい旨を伝える。苗床の日よけはきちんと作業が終了していた。

今回はチペンビのサンバさん、彼の友人で魚関係専門の女性が来てくれた。カルブウェで溜池を作る場合、ここの土ではセメントなしで池は作れない、農場全体をカバーするには直径２２メートル、深さ３メートルの池を作った方が良いとの事だった。

## チペンビ

・農村開発ローン

### 小規模農村開発ローン

牛肉販売の新規ローン開始。事業もこれで１０件目。しかし、順調だった養鶏事業が鳥インフルエンザの影響で活動休止に追い込まれるなど、問題が次々に発生。

### 2月8日（水）

**養豚場。**豚舎作りは、３頭分のスペースが屋根を残すのみ。

来週の頭には屋根を完成させ、豚を買いにルサカに来るとの事。

**チティベ・タックショップ。**先週に続き、今週もちゃんと営業。先週指摘した帳簿の付け方もきっちり訂正。

## 2月15日（水）

**カサカ養鶏。**鳥インフルエンザがナイジェリアまで来てしまった為、カサカ養鶏も一旦休止せざるを得ない状況。活動が乗ってきているだけに、こういった事で下火にならないか心配。

## 2月22日（水）

**養豚場。**メス豚３頭分の豚舎が完成。今週の土曜日にルサカで豚を買う事に。

**カサカ養鶏。**今育てている鶏を終えた後、一旦休止の方向で考えることに。

**カリケンカ・タックショップ。**やはり品薄。なるべく早く仕入れに行くように伝える。

## 3月1日（水）

**カサカ養鶏。**養鶏休止中の活動として、タックショップをやりたいとの事。近々申込書を受け取る予定。

**カリケンカ。**相変わらず品薄。JICA の PaViDIA（孤立地域参加型村落開発計画）で成功しているタックショップの事をメンバーに話すと興味を持った様子。

## 3月15日（水）

**養豚場。**妊娠した雌豚３頭購入。随分前、扉の支柱が１本取れた豚舎の補強用にハンダを渡していた。まだ対処していない。

**カサカ養鶏。**今いる鶏を完売。

**カリケンカ。**JICA・PaViDIA での研修の話を進める。食費・旅費は自分達で出すよう伝える。

**チティベ。**ここ数日の雨で店の外壁が崩壊。今はメンバーの家で販売をしているとの事。もう店で何かをする気はないのか。

## 3月22日（水）

**カサカ養鶏。**タックショップ開始に向けてローン申込書作成中。3月中にローン合意したい。

**カリケンカ。**PaViDIA 研修を受けるメンバーがまだ決まっていない。明日までに何らかの形で連絡をするように伝える。

**チティベ。**壊れた店での販売はしておらず、各メンバーの家を順番に店にして営業している様子。売上がカリケンカよりも多いのは驚き。

**養豚場。**豚たちは順調に成育。肥溜め用水槽は、穴を掘り、中をセメントで固めずに使うとの事。水の汚染が気になる。

## 4月5日（水）

**養豚場。**豚たちは順調。豚舎内の清潔も保持されている。再来週からワークショップを行う。

**カリケンカ。**未だ買出しがされていない。店番しているのもいつも同じ女性。グループで活動している意義が見出せない。近々再度全員に召集をかけ、話を聞くつもり。

**チティベ。**半壊した店で商売をしていたが、来ているのはメンバー１人だけ。来週みなに来るように伝える。

## 4月12日（水）

**養豚場。**豚は順調。残りの豚舎の建設もそろそろ始まる。

**牛肉販売。**TICO はチャリティーに来ているのではなく、地域発展の手助けをるすためにきていると、小規模ローンの意義を伝えた後、ローン合意書作成。

**チティベ。**メンバーから店を修理して商売したいとの申し出。店には興味がないものと思っていた。意外。

**カサカ養鶏。**ローン合意書作成。近々ワークショップを開く。

### 4月19日（水）

**カリケンカ。**やっと買出しがされていた。２６日に JICA・PaViDIA に研修に行く予定。

**チティベ。**店の再建が開始。

### 4月26日（水）

カリケンカメンバーPaViDIA プロジェクトサイトを訪問。

### 4月27日（木）

**養豚場。**ワークショップ２日目。１日目に比べ、参加人数が減っている。クリニックで別のワークショップがあり、そちらに人が流れてしまったらしい。

## アグロフォレストリー

フィールド・デイに向けて着々と準備が進む。

### 2月8日（水）

３月１０日のフィールド・デイに向けて打ち合わせ。Ｔシャツのデザイン等を決めた。

### 2月22日（水）

モニター２人を訪問。モニタリングノートにはいつも同じ事しか書かれていない。もっと良いモニタリング方法はないか。

### 3月1日（水）

フィールド・デイの最終確認のためクムウェンダ氏を訪問。ところが、クムウェンダ氏はマラリアで病院に…。Ｔシャツ制作は問題なく進んでいるとの事。

### 3月10日（金）

本日フィールド・デイ。記念Ｔシャツも無事に完成。

開会式のあと農場見学に出発。さすがカレッジの畑。様々な手法が取り入れられている。チペンビとカルブウェでお互いに人を送り、刺激し会えたらと。最後に軽食をとり、TICO からの挨拶、カレッジからのスピーチでフィールド・デイは無事終了。

### 3月22日（水）

クムウェンダ氏より、先日のフィールド・デイで登録しに来た農民のリストをもらう。これで参加したい人数は２００近くに。今年はアグロフォレストリーだけでなく養豚、ディップタンクなどを合わせた複合的なプロジェクトの可能性を探りたい。

### 4月5日（水）

JICA・PaViDIA のデモファームを訪問しないかという話をクムウェンダ氏に伝える。

### 4月12日（水）

CFC（チペンビ農業大学）のクムウェンダ氏とナマスモ氏、養豚グループの４人の計６人がデモファームを訪問する事に。交通費は TICO が支給。

### 4月20日（木）

JICA・PaViDIA のデモファームを訪問。ザンビア人スタッフとＪＩＣＡ専門家からアグロフォレストリーの緑肥作物の話などを伺う。メンバーにとって有意義な訪問となった。

## ディップタンク（牛の薬浴）

薬浴に来る牛の数が伸び悩む。野菜の収穫販売が始まり経済的に余裕も出てくる５月以降に期待。

### 2月15日（水）

２月２４日にディップタンクの完成と、すぐ脇に政府が設置してくれた手押しのポンプの井戸の落成式が行われるとの事。当日は農業大臣も訪れる予定。

### 2月24日（金）

農業大臣が急用のため、代わりに事務次官が出席して、セレモニーが行われた。ディップタンク・コミッティーから政府と TICO に対して感謝の意が述べられ、TICO と事務次官からのスピーチも行われた。

### 4月4日（火）

薬浴にやってくる牛の数が少ない。農民の経済的理由も考えられるため、野菜の収穫販売が始まる５月以降を期待したい。

## ＤＣＣへミシンを寄贈

２月１０日、ヒダノ修一さん（和太鼓奏者）・川崎市のカリタス女子中学高等学校の皆様から寄せられた寄付金で購入したミシンが、ルサカ市マテロ地区にあるＤＣＣ（ザンビアの NGO）の洋裁教室に寄贈されました。DCC コーディネーターのンドゥワ氏から TICO と日本の支援者に対する感謝の言葉と、これだけの支援を貰ったのだから、洋裁教室を頑張らねばという決意の言葉を頂きました。なんとンドゥワ氏は 1998 年にザンビアで行われたヒダノさんのコンサートに行ったのだとか！自分の知っている人から頂いた寄付ということで、喜びもひとしおだったようです。TICO の西口さんが、ヒダノさんとカリタスの皆さんの好意を忘れることなく、洋裁教室の運営に携って欲しい旨を DCC のメンバーに伝えました。ミシン贈呈の最後に、女性たちが「TICO の支援を忘れない」といった意味の即興の歌を歌ってくれました。真新しいミシンとともに、DCC の洋裁教室は３月６日より開始されます。

## ンゴンベ　校舎建て増し中！

ンゴンベの小学校では、現在 15 人の困窮家庭のこどもを無償で受け入れているとの事。学費が払える家庭からはもらい、そうでない家庭からは取らない。学校も維持運営しながら、困っているこどもの支援も続けられています。このような状況でこどもの数はどんどん増え、校舎の建て増しを行ってなんとか受け入れようと頑張っています。しかし、屋根をつけるだけの予算が無く、TICO に支援をしてもらえないかと頼まれました。そして、カリタス中学校から DCC への裁縫教室の支援金の残りと、ザンビア事務所前所長の江橋さんからの指定寄付 300 ドルでの支援を決定。現在も工事が続けられています。

## TICO 国内活動

（２００６年２月１日～４月３０日）

＜２００６年２月＞

３日　鴨島町森山小学校にて活動報告（福士事務局長）
７日　日本外国語専門学校国際ボランティア科へ講師派遣（吉田修代表）
９日　木屋平中学校国際理解講座へ講師派遣（吉田修代表）
１９日　NGO 入門講座ー地球的視野に立って地域で活動しようーにて講演（吉田修代表）
２２日　鴨島町森山小学校よりの寄付金贈呈式の出席（福士事務局長）
２４日　外務省主催 NGO 研究会（マラリア予防プロジェクト）海外研修フォローアップ・セミナー参加（吉田修代表・田淵幸一郎会員）
２５日　地球人カレッジ「マラリア対策最前線」報告・吉田修

＜２００６年３月＞

３日　JICA 四国支部訪問、新規案件の「草の根技術協力事業申請」について協議（吉田修代表・福士事務局長）
１６日　外務省主催 NGO 研究会（マラリア予防プロジェクト）２００５年度総括セミナー出席（吉田修代表・田淵幸一郎会員）
２４日　江橋裕人ザンビア事務所前所長、事務局訪問
２５日　地球人カレッジ「ザンビア帰国報告」報告・江橋裕人

＜２００６年４月＞

２日　田淵幸一郎さんザンビアへ新規案件調査のため出発
６日　井形和枝さんＪＯＣＶ任期終了、ニジェールより帰国
１０日　五十嵐仁さんザンビアより一時帰国
１２日　江橋裕人さんザンビアへ短期派遣
１５日　ＪＯＣＶマラウイＯＢ山田耕平さん事務局訪問
１６日　五十嵐仁さん事務局訪問、帰国報告
１７日　井形和枝さん事務局訪問、帰国報告

## 地球人カレッジ報告

### 「マラリア対策　最前線」

（2月25日）

吉田修ＴＩＣＯ代表が、自身も感染した経験のあるマラリアについて話しました。世界最前線のマラリア対策について、スライドを用いながら分かりやすく解説しました。この日は特別に時間をとって、イラク戦争の真実が映し出されたドキュメンタリー「ファルージャ　隠された虐殺」も上映しました。

### 「ザンビア帰国報告」

（3月25日）

ザンビア駐在員として３年の任期を終え帰国された、ＴＩＣＯザンビア事務所前所長の江橋裕人さんに、ＷＡＨＥプログラム立ち上げから、現在進行中のプロジェクトの状況、今後の課題などについて話して頂きました。

６月の地球人カレッジのお知らせ

**青年海外協力隊で行ったニジェール（仮題）**　報告者：井形和枝さん　**6**月**17**日（土）午後７：３０～９：００

（詳細は決まり次第、ホームページ・メール等でお知らせいたします）

**チペンビ農村開発ローン・新規事業支援者募集中！**

事業 No.１０：ティグウィリザーネ牛肉販売　　支援金一口５０００円。

各グループから支援者の方に定期的に手紙が届きます。詳しくはＴＩＣＯまでお問い合わせください。

## ありがとうございました（敬称略）

★寄付をくださった方々★

今関知良　わらびの会　小野裕次　鶴見中学校　ズーズーアンジェロ　中上邦光　森山小学校　東桃代　鈴木一城　五十嵐仁　ジャスコ徳島店　高木クニ子　城西高等学校　渡部豪　河合栄枝　菅原祥恵　松浦和美　みんなのチャリティー　田渕俊次　和田千代

★会費を継続して払ってくださった方々★

饗場和彦　青柳美代子　井内一志　五十嵐仁　五十嵐久美子　井形和枝　梅久美保　大瀧知津枝　尾崎富美子　尾崎裕司　垣原宏治　古賀明子　佐藤三千子　篠原隆史　四宮万代　高井美穂　田所幸枝　谷泰伸　津田道子　長野茂夫　中村典子　橋本吉之　畑和子　町田美佳　松浦和美　松岡哲也　和佐敦司　蛍光産業株式会社　ヒラオカ薬局　みずほメディカル株式会社　こうざい調剤薬局　太陽と緑の会福祉事業団　北島コーポレーション　ホウエツ病院　坂東印刷　徳島商業高 Inter Act Club　常見裕之　山岡知亙　鈴木　林

★新たに会員になってくださった方々★

東桃代　笹井美由紀　田渕俊次

（２００６年２月１日から２００６年４月３０日までの事務局入金分：順不同）

※お名前を非公開にされたい場合はＴＩＣＯまでご連絡ください。

## 【TICO への入会方法】

会員となって資金面から TICO の活動をサポートしてくださるかたを募集しています。入会ご希望の方は郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。インターネットの TICO ホームページからも入会申し込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター『Face to Face』を毎号送付いたします。

【正会員】　12,000 円

【賛助会員】　個人：12,000 円　学生：6,000 円
団体：15,000 円

（通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい）

**振込先：郵便振替口座 ０１６４０－６－３７６４９**
**振込先加入者名：TICO**

Ｅメールアドレスをお知らせいただいた方にはＴＩＣＯの各種イベント情報をメールにてご連絡申し上げます。

ＴＩＣＯの活動は皆様からの会費やご寄付によって支えられています。会費の納入がお済みでない会員の方は、納入下さいますようお願いします。なお、郵便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いただけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いいたします。

## 国際協力論　四国から世界へ　知って理解し動ける人に

JICA 四国支部、四国 NGO ネットワーク、徳島大学が共同で、今年の４月から毎週火曜日に徳島大学で開講されているのが「国際協力論」。世界的視野と行動力を持った人材を四国からも育てようと、昨年愛媛大学で開講され、今年徳島大学も開講、香川大学や高知大学でも開講の準備が進められています。

毎回、四国内外から国際協力の専門家や当事者を講師として招いて、国際協力にまつわる様々な話を聞きます。この国際協力論に TICO の吉田代表も講師として参加しています。

この国際協力論は公開講座で、一般市民も参加することができます。詳しくは徳大開放実践センター（電話：０８８－６５６－７２７６）までお問い合わせください。

## お知らせ

**●講師派遣**

TICO では学校の総合学習の時間などでの国際理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっています。お問い合わせはＴＩＣＯ事務局まで。

**●ご寄付のお願い**

気が向いたときに少しだけでも寄付したいという方は、下記の口座で寄付を受け付けています。あなたの想いを必ずザンビアまで届けます。

ＴＩＣＯホームページで TICO からの最新情報をご覧いただけます！！

http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/

## 募金のお願い

TICOのザンビア支援活動は皆様からの寄付金や会費により支えられています
（事務局の作業軽減のため領収書は発行していません。必要な方はお申し出下さい）

**郵便振替口座：０１６４０-６-３７６４９　振込先加入者名：ＴＩＣＯ**

**四国銀行 山川支店（店番号３４４）普通預金 ０１９９６９２**
**特定非営利活動法人ＴＩＣＯ 代表理事 吉田修（トクヒ テイコ）**

TICO ニュースレター Face to Face 第８号　2006 年６月発行　　発行人：吉田　修　　編集担当：福士　庸二

【TICO 事務局連絡先】
〒779-3403　徳島県吉野川市山川町前川 212－6　　電話：090-7786-3193　/ ＦＡＸ：0883－42－5527
TICO ホームページ：http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/　　e-mail：zikomo@nmt.ne.jp